

●「赤心」継がゆ
Dream

五代塾 Sinbun (新聞)

GodaiJuku

第 28 号

発行：Dream 五代塾

吹田市千里山西 5-14-17

発行責任者：理事長 川口 建



写真右…トークショー前に行われた完成記念の記念写真。左から高田宣博町長、安彦良和氏、佐々木るん氏（声優）
…写真は桑折町提供…

写真左…『半田銀山昔語り』の表紙。中央は五代友厚、下左のキャンパスを持つ人物が安彦先生の曾祖父・兵太郎氏、奥の眼鏡をかけた人物は桑折町の名家・早田伝之助氏。
本書は半田銀山の復興と先生ご自身のルーツ辿り、絵図面師の曾祖父・地元の早田家と町民のドラマ・そして五代友厚を描き、桑折町・半田銀山の歴史価値を記録した歴史漫画本。



「半田銀山昔語り」完成記念 安彦良和先生トークショー & 原画展・販売会

歴史漫画『半田銀山昔語り』完成記念 日本アニメ界の巨匠・安彦良和先生トークショー よみがえる半田銀山と五代友厚

福島県桑折町制施行70周年記念事業の一環で町の誇るべき歴史遺産「半田銀山」をテーマに安彦先生が書き上げた。また、五代友厚の事績の中でも半田銀山は重要で、国富のため先進技術と町民の協力の中で推進した大事業である。安彦先生も桑折町・半田銀山には少なからずご縁があり、貴重な歴史漫画本を熱い思いで書かれたと聞いた。なお、『半田銀山昔語り』に先立ち3月から『銀色の路（みち）—半田銀山（やま）異聞—』（週刊ヤングジャンプ・集英社）が連載中である。

Dream 五代塾会員 川口 由美子

2025年9月7日13時30分から桑折町体育館にて開催された。アニメ「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザインを務めた漫画家安彦良和先生と声優佐々木るん氏とのトークショーに、昨年11月の半田銀山シンポジウムに続き、全国から応募者400人が集まり、桑折町あげてのイベントとしてファンの皆様の熱気と共に更に上がり、急遽変更となった体育館は超過熱気味だった。

開催のきっかけは、以前福島市で先生の作品のガンダムなどの原画展を開催した。その時に自身のルーツが桑折町にあり、安彦先生の曾祖父が半田銀山で絵図面師として活躍されていたというその半田銀山のある桑折町を訪れたとのこと。

思いのほか町長はじめ職員の方々の盛大な大歓迎を受け親交が深まり、何か漫画企画でお礼をせざるを得なくなる心境が強まり、それが昨年11月に開催された半田銀山シンポジウムに繋がった。
半田銀山は五代友厚という人が深く



連載『銀色の路—半田銀山異聞—』初刊1項より。鉱山事故の窮地を救うべく救世主が登場する場面。
本書は薩摩出身の実業家・五代友厚が、あつれきや誤解、障壁を乗り越えて、半田銀山復興を果たすまでの道のりを描く歴史ロマン。（昔語り本より）

た『銀色の路—半田銀山異聞—』を書く！という発表に町長はじめ職員、安彦先生ファンのウオーという声と拍手が会場を揺るがした。

更に今回の『半田銀山昔語り』の完成発表会はファンを大喜びさせていた。桑折町は町施行70周年という記念となる節目で先生に小冊子をお願いできませんか？という打診があり気が付け

ばこの『半田銀山昔語り』に繋がり、今日の発行記念会となったという事だ。（詳しくはこの半田銀山昔語りをご覧あれ）
先生は昨年のシンポジウムの時より忙しく、お年も重ねられたのに、若々しくお元気になられているようで、弁舌も軽やかに作品に対する思い、五代友厚への想いを語られていたのが非常に印象的だった。

この絵図面師の曾祖父がもしかしたら、五代さんと会っていたらどうか、一瞬でも五代さんと関りがあったのではないかと、そうでもなくても同じ空気を吸っていたのでは、いやいや曾祖父と話をしていたのではないかと考えていくそのロマン心が作品に反映されているのではないかと思う。そんな風に思わす先生の製作者としての夢かける、生きいきとした思いが伝わってくるトークショーだった。

トークショー終了後は抽選で当選の150人が先生のサイン入り本を購入と握手が出来ることとで、会場の向かいの「イコーゼ」屋内温水プール・多目的スタジオは熱気が最高潮に達していた。

安彦先生にとっても五代友厚という人物がご自身の歴史漫画家魂に火をつけ創作意欲を掻き立てたという事は時を超え、五代友厚の素晴らしさを更に実感するものだ。この歴史漫画を一人でも多くの方に読んで頂き、五代友厚から、福島県の半田銀山、手がけた全国に点在する鉱山業、実業、雇用、公害対策等いろいろな分野に興味を持ってもらえる、来年春刊行予定の『銀色の路—半田銀山異聞—』単行本を楽しみにしたい。

桑折町は献上桃の郷で、特に「あかつき」は全国的にも評価が高い。今回訪問時は収穫期が過ぎており、たわなに実る桃の写真が撮れなかった。次回は収穫時期にぜひ訪問したい。



献上桃の郷から半田山を一望

五代友厚に関する教科書等記述訂正について

Dream 五代塾顧問 上村 修三
(五代友厚顕彰会世話人)

―五代友厚に関する記述は、これまでの事典、学術書、教科書等では、五代友厚は北海道開拓使官有物払下事件に関わり、政商であったと記述されていた。近年の五代友厚研究により、五代友厚の記述がどのように訂正され、高校教科書ではどのように訂正されたのか―

現在では、百科事典が刊行後、改訂することはまずない。ここでは、小学生向けの人物事典、WEB世界大百科事典、岩波書店「日本史年表」、直近のウィキペディアで、五代友厚がどのように記述されているのか、みてみよう。ウィキペディアでは、直近の教科書訂正、岩波書店の日本史年表訂正について記述されている。

■学習漫画日本の歴史人物事典(集英社 984・11第1版、1999・9第2版) 右 1 線は筆者

薩摩(鹿児島県)に生まれ、長崎でまなんだのち、清(中国)のシャンハイ(上海)にわたって世界の国ぐにの人たちとつきあいました。そして貿易のたいせつさを知りました。帰国してからは、その知識をもとに藩の貿易の発展につくしました。友厚は明治になると、政府のあとおしをうけて、実業界に進出し、大阪を中心に活やくをしました。また政府がつくった工場や会社を、やすくゆずりうけて経営しました。鉱山、株式取引所など、工業や商業の

発展に力をそそぎました。

■WEB世界大百科事典 右線は筆者

明治期の政商。薩摩藩出身。幼名は徳助または才助、のちに友厚と改名。青年期に長崎の幕営海軍伝習所に留学、1859年(安政6)上海に密航して世界情勢を知り、富国強兵論を説く。65年(慶応1)藩命によりヨーロッパを視察。維新の動乱には、通商や武器の売込みなどで活躍し、新政府成立後、任官。外交官の役職を歴任後、大阪府判事まで昇進。69年(明治2)に同職を辞任後、関西財界で活躍、鉱山経営、製藍事業、大阪株式取引所、大阪商法会議所の設立や運営など、大阪の発展に貢献した。開拓使官有物払下事件にかかわるなど、政府の実権者大久保利通と結合し、政財界に勢力をのばすという点で典型的な政商の一人であった。「石塚 裕道 ※1929年生まれ、東京都出身。東大文学部国史(日本史)学科卒。東京都立大学名誉教授。『日本資本主義成立史研究』(1973吉川弘文館)等」

歴史学研究会編「日本史年表」(岩波書店 2017第5版)
7・21参議院開拓使長官黒田清隆、官有物払下げを申請(30 勅裁により五代友厚・中野権一「の関西貿易商會に代価38万円、無利息30年賦で払下げ決定、8・1発表」) 26 「東京横浜毎日新聞」社説(28)、開拓使払下げ問題を暴露。

■ウィキペディア 右線は筆者
・明治14年(1881年)3月、大阪青銅會社(住友金属工業)を設立する。6月、関西貿易社を設立する。7月、開拓使官有物払い下げ事件に関わり、批判を浴びる。
・悪に対する厳格な態度

五代の大阪との関わりは、明治新政府成立後のことで、新政府が諸外国との交渉窓口として外国事務掛を大阪に設け、五代を任命し

たのが起点である。当時の大阪では日本人の無知につけこんだ外国商人の不正行為が後を絶たなかった。条約違反、購入料金の不払い、雇い人への賃金不払い等は日常茶飯事で、領事館の家賃不払いまでもが平然と行われていた。五代はこのような不正に対しては毅然とした態度で臨み、一切の妥協を拒んで取り締まりに努めた。次第に五代が駐在する大阪港では外国船の荷物検査があまりにも厳しいという抗議が政府まで届き、政府が取り締まり緩和勧告を出すほどの騒動に発展した。しかし、五代は外国商人の要求の真意が、「荷物検査が厳格に行われることにより、脱税や不正ができなくなる」からである、と見抜いていたので全く動じなかった。

1881年(明治14年)には、開拓使官有物払下げ事件が発生した。開拓長官、黒田清隆が、官有物を同郷の五代が設立した「関西貿易社」に不当に安い値段で払い下げようと画策し、五代は黒田と癒着した「政商」とみなされて、反薩摩の人々から非難の対象となり、後年の日本史の教科書においても「五代は黒田から官有物を破格の価格で払い下げを受けようとした」ことが史実であるかのように記載されてしまった。

ところが、実際には五代は、この申し入れを断っていた。五代の関西貿易社への払下げは岩内炭鉱と山林に留まり、それらを格安に譲り受けた事実もなく、黒田の払下げ伺書においても五代および関西貿易社の名前はなかったにもかかわらず、当時の『東京横浜毎日新聞』や『郵便報知新聞』では、1500万円に

のぼる開拓使の資産が、五代一人に払い下げられるかのような報道がなされていた。

五代は「払い下げ問題は政局に利用されている」「新聞で弁明しようとしたが、政府要人から止められた」という書簡を出しており、公に弁明することは叶わなかった。

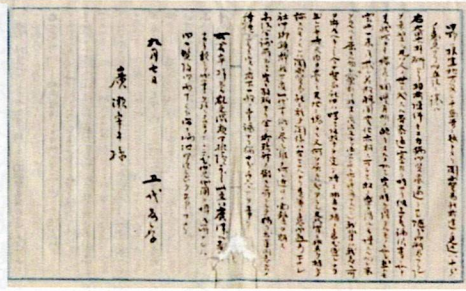
このため五代を創設者とする大阪市立大学のOBが、「五代が官有物を安く払い下げをうけた事実はない」として、教科書出版社に訂正を求める運動を行い、2023年度には第一学習社や山川出版が払い下げ事件の記述から五代の名前を削除し、同業他社も「五代への払い下げの可能性が『新聞に報じられて問題になった』と修正を行い、日本史年表を出版していた岩波書店も訂正する方針を示した。

五代は金銭においても潔白で、私財を蓄えず、それどころか必要だが予算のつかなかった事業には借金をしてまで行っていた。そのため没後には100万円の借金が残ったが、遺族はこれを完済した。

商人にとって「信用」は最も大切であり、不正を容認することは信用を失い、不正を糾弾することでその信用を勝ち取るうとする五代の信念があった。五代は商人である前に「正



末岡昭啓監修「五代友厚と広瀬幸平～広瀬家文書からみる開拓使官有物払い下げ事件」(新居浜市広瀬歴史記念館 2023.11)



広瀬幸平宛五代友厚弁明書状(1881.9.7)
広瀬家文書
「青天白日、毫毛天地二愧チス」(青天白日、まったく天地に恥じることはない)。1881年の9月7日。事件への批判が噴出する中で、政府関連の事業からの撤退を助言する広瀬の手紙に対する五代友厚からの返信。払い下げ問題は政局に利用されている」「新聞で弁明しようとしたが、政府要人から止められた」…と五代友厚は弁明した。

高校日本史教科書「北海道開拓使事件」記述訂正 2023 年 2 月 2 日 現在【筆者調べ】

※下線筆者

出版社	教科書名	令和 5 年改訂版【HP 等での公表】	原文【2022 年 3 月検定済みの見本】
山川出版	詳説日本史 改訂版	1881(明治 14)年、北海道の開拓使所属の官有物を払い下げるに当たり、旧薩摩藩出身の開拓長官黒田清隆が、同藩出身の政商五代友厚らが関係する関西貿易社などに不当に安い価格で払い下げようとしていると報じられ、問題化した。明治十四年の政変で、払下げは中止された。	1881(明治 14)年、北海道の開拓使所属の官有物を払い下げるに当たり、旧薩摩藩出身の開拓長官黒田清隆は、同藩出身の政商五代友厚らが関係する関西貿易社に不当に安い価格で払い下げようとして問題化した。明治十四年の政変で、払下げは中止された。
第一学習社	改訂版 日本史 A	1881(明治 14)年、薩摩藩出身で開拓長官の黒田清隆が、開拓使の官営事業の全部を、開拓使官吏が退職して設立しようとした民間会社に安価で払い下げようとしたことに対し、自由民権派をはじめとする世論の政府攻撃は、はげしくなった。	1881(明治 14)年、薩摩藩出身で開拓長官の黒田清隆が、北海道の鉱山や工場などの官有物を、同じ薩摩藩出身の政商五代友厚に安価で払い下げようとしたことに対し、自由民権派をはじめとする世論の政府攻撃は、はげしくなった。
実教出版	詳説歴史総合	開拓長官の黒田清隆が、同じ薩摩藩出身の政商、五代友厚らが経営する関西貿易社に、不当に安い価格で官有物を払い下げようとしていると新聞が報じて問題になった事件。	開拓使長官の黒田清隆が、同じ薩摩藩出身の政商、五代友厚に、不当に安い価格で官有物を払い下げていたことが明らかになった事件。

義「大儀」を重んじる一人の武士であり、不正を見逃すことも国益を損なうことも許さない性分だった。

教科書がどのように訂正されていたかは、八木孝昌『五代友厚 名誉回復の記録―教科書等記述訂正をめぐる』(たる出版 2024・11)に詳しいが、記述訂正は左の一覧表の

とおりである。

なお、清水書院「日本史探求」では、いち早く訂正され 2022 年には「開拓使の次官に 1870 年に就任して以来、黒田清隆(1840〜1900)が事実上、北海道開拓の責任者であった。1882 年に開拓使が廃止されることと予定されており、黒田は開拓使が約 2000 万円投じた事業を守るため、38 万円余という不当に安い価格で、同じ薩摩藩出身の政商五代友厚の経営する「関西貿易社」に払い下げようとしていると新聞が報じて問題化した。結局、明治 14 年政変で開拓使官有物の払い下げは中止され、ともに、開拓使も予定どおり廃止された。」「東京書籍「日本史探求」では「開拓使の長官である黒田清隆が、1881 年に官有物を払い下げようとしたところ、同じ薩摩藩出身の五代友厚が黒田と結託して利益をえようとしているとして、はげしい攻撃を受け、払い下げは中止された。」と従来説の記述となっている。

※右線筆者 教科書訂正については、多くの教科書会社が訂正に踏み切った。

今後は、五代友厚をどのように顕彰していくのかは今後の課題ではあるが、福島県桑折町制施行 70 周年記念企画展「よみがえる半田銀山と五代友厚」、五代を軸にした安彦良和著歴史漫画「銀色の路(みち)―半田銀山(やま 異聞)―と新作歴史漫画「半田銀山昔語り」の刊行、(仮称)桑折町歴史観光交流センター(2027 年度開設)の動きを参考にしていきたい。



(仮称)桑折町歴史観光交流センター 模型

五代友厚も立ち寄った

外祖父永見の家(中の一)

Dream 五代塾顧問 會野豪夫

大阪の五代と永見(明治の初め頃)

慶応三年十二月二十八日に五代は鹿児島から兵庫に到着した。それ以降、五代の本拠地は大阪となった。



兵庫開港の日の欧米列強連合艦隊イラストレイテッドロンドンニュース。慶応 3 年 12 月 7 日元旦(1868 年 1 月 1 日)神戸事件は 1 月 12 日に起こった。

明治二年三月京都から東京に奠都。五月十五日、大阪府判事だった五代友厚に新政府から中央政府の会計官権判事に任ぜられ、横浜転勤を命ぜられた。五代は二十四日に横浜に転勤したが、大阪府の職員や大阪市民が反対運動を行い、政府に対して二十五日付けで五代の大阪留任嘆願書を政府に提出した。その時の署名者合計一五一名の中に「七等永見利十郎、永見常三郎、永見常蔵」の名前がある。六月「版籍奉還」。それより先旧幕府と列強との協定により、慶応三年十二月七日(一八六八年一月一日)に兵庫(神戸)港が、また翌明治元年七月一五日大阪(川口)港が夫々開港された。

それ迄日本人は鎖国政策のために外国人と接したことがなかった。まして港湾の管理事務や外国船との直接交渉をした兵庫や大阪や新潟の人はいない。そこで異人(西洋人)と接することに多少なりとも違和感を持たない長崎人を五代が、維新前の慶応二年に長崎から大阪に先行移住独立させていた筆者の外祖父永見米吉郎に命じて長崎人数名を府庁の職員に取り立てた。



明治 7 年に川口に完成した 2 代目大阪府庁舎。

記載されている永見姓は合計五名である。

明治二年版 永見市二(補備役)
永見恒蔵(天保山詰)
永見利十郎(三側番所詰)
永見常三郎(“)
三年版 永見市二(補備役)
永見恒蔵(本船番士)
永見延之助(居留地七門守衛)
元、四、八年版「職員録」不明



大正 15 年(昭和元年)に完成した 3 代目大阪府庁舎。職員数 1,200 人。(筆者は兼松退職後、平成 6 年(1994)から大阪府の外郭団体の参与として暫く本庁舎に小部屋を与えられた。)

九年の大阪府、堺県の「職員録」には永見姓なし。

二年六月の「版籍奉還」により各藩の蔵屋敷を明治新政府は没収した。外曾祖父永見米吉郎は、淀屋橋の旧吉田藩の蔵屋敷の払下げを受けることができた。

幕末期に米の相場は混乱、高騰し、米取引の機能が果たせなくなっていた。今年平成七年の米価高騰に際して、江戸時代の米商会所の機能について再考した大阪人は多かったと思う。米価問題に関心のある方はNHK英雄たちの選択「米価は誰が決める? 將軍吉宗 vs 大坂商人の20年戦争」をU-NEXTなりでご覧下さい。全政治家と政治を志す者は鑑賞し、熟考していることと思う。

大久保利通公

明治三年五月中旬、大久保が竣工間近の造幣寮を視察するために大阪にやってきた。大久保は工場見学のと、応接室で五代のほか九里正三郎、岩瀬公圃、永見米吉郎らを交えて懇談した。(大久保と岩瀬・永見は幕末長崎以来の顔見知りである。)大久保は新政府の「廃藩置県」の方針などを五代らに説明して、こう続けた。「...貴公の



大久保利通公

事業の方は、紀の庄さん(九里)や岩瀬君や永見君に任せられても、もう大丈夫じゃないのかね。ところが廃藩置県の仕事は君の知恵を借り、大いに協力を得なければ難しいんだよ。五代は「大阪が、すっかり気に入ったよ。もうテコでも動かんよ。ハッハッハッ」と腹をゆすって豪快に笑った。(小寺正三著『起業家 五代友厚』現代教養文庫1000頁)

永見米吉郎邸

外曾祖父の屋敷の所在地(本紙二十五号地図参照)は、土佐堀川を挟んで今の日本銀行大

阪支店に面することになる土地だった。明治四十四年

の『大阪地籍地図』によると土地は約五三〇坪、建坪約八十六坪(更に地籍地

図には記載はないが二階約五十坪)である。この屋敷で米吉郎は結婚し、長男省一(筆者の外祖父)と姉妹五人が生まれた。更に筆者の母(やす)が明治四十二年(一九〇九)に生

まれた。母は兄弟姉妹十一名(内二名夭折)の大家族だった。三十年程前に叔母がカレンダー用紙の裏側にすいすいと間取り図を書いてくれた。一階一〇室、二階九室。それを元に叔母の娘婿大野昌信一級建築士に線を引き貰った。



十八銀行大阪支店。左大屋根が永見米吉郎本邸。右奥の倉は永見の所有。右端は毎日新聞社。(明治27年頃か)



十八銀行大阪西支店(明治35年頃か)

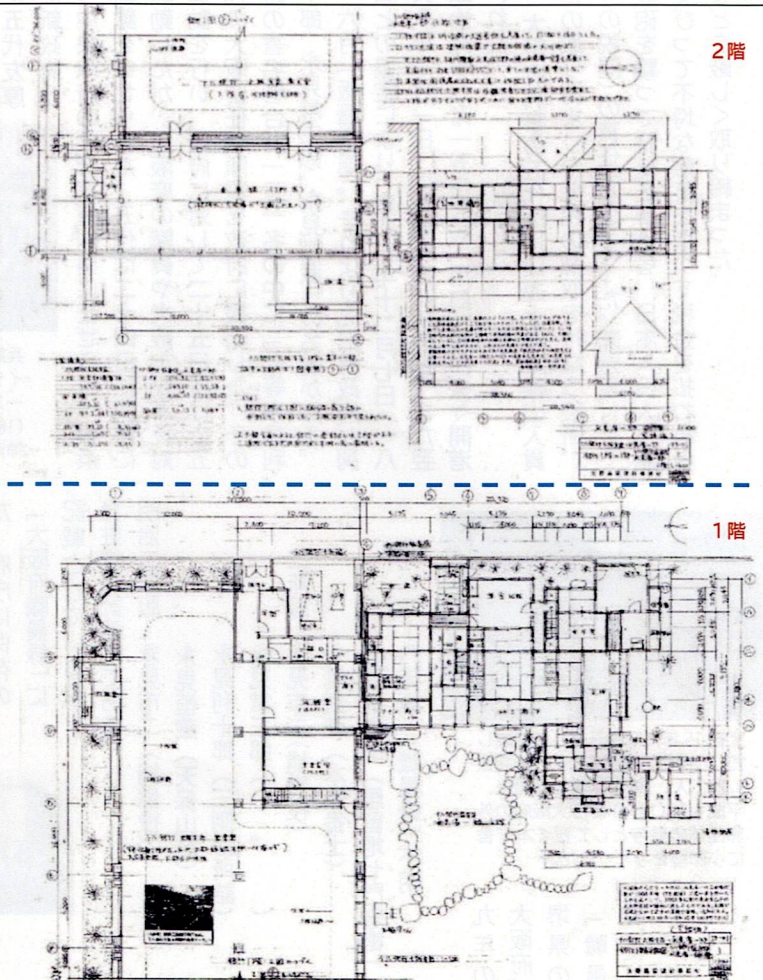


「大阪市パノラマ地図」大正13年(復刻版)。赤丸印内の右上淀屋橋。中心左側背の高い建物は完成間近の十八銀行大阪支店、その南側淀屋小路迄が永見家3代の土地家屋。こと左側のブロックが現住友ビルの敷地。旧住友銀行はまだなかった。淀屋橋北詰左側が日本銀行大阪支店。(現在甥の娘が日銀に勤めている。)

Dream 五代塾活動状況

1. 歴史漫画「半田銀山昔語り」完成記念・安彦良和先トークショー参加 2025年9月7日13:30~ 福島県伊達郡桑折町多目的スタジオ「イコーゼ」
Dream 五代塾より4名参加・・・内容は本紙1面参照
 2. テレビ大阪「もしマネ」特別編「明治の開拓者五代厚物語」放映(8月30日) 当塾も一部参画、織田信成氏のインタビュー場面あり。現在YouTubeで配信中
 3. 五代友厚公顕彰参観会実施(9月25日14時~)大阪取引所ロビー集合⇒取引所内展示見学⇒大阪企業家ミュージアム内展示見学⇒大阪市設南園内墓参⇒ミニセミナー・懇親会
- ◆第24回Dream 五代塾セミナー予定
日時: 2025年10月18日(土)14時~16時
(原則偶数月第3土曜日) 場所: 川口宅にて
テーマ: 福島県桑折町半田銀山訪問の報告
(1)2024年11月10日半田銀山シンポジウム
(2)2025年9月7日歴史漫画「半田銀山昔語り」完成記念、安彦良和先生トークショー

- 大正14年(1925)の改築後の十八銀行大阪支店(左半分)と移築後の永見省一郎(右半分)。
・十八銀行の1階は事務所、2階部分は吹抜け。
・永見省一郎の1階は玄関座敷居間などで2階は住居部分。



編集後記

今月13日に183日間の大阪・関西万博が終了する。開催に当たり暫くは各地上メディアやSNSなどネガキャンが溢れ、失敗することを期待させられる情報が溢れていた。TVなどで視覚化され、スケールの大きさ、入場者の増加が現実化すると手の平返しに如く180度転換、まず大屋根リングの素晴らしさに感嘆!!、前評判の悪かったミャクミャクキャラクターが大変な人気となった。交通、買い物、飲食支払のキャッシュレス化、スマホの操作向上など国民生活インフラも進化し、また公共インフラ整備、観光、一般消費など経済効果に大きく貢献し、未来に向けて大きな変革となった。テーマソング『この地球の続きを』のように万博が若い世代の未来へ夢が広がることを期待する。万博を開催する意義は、現在人は勿論のこと未来に生きる人々の為であり、五代さんも大喜び!! 拍手喝采ではなかろうか? (由美子記)

(連絡先:川口建)
Email: gogoken12345@gmail.com
Tel: 080-4497-5688
HP: <https://www.dream-godai.com>

